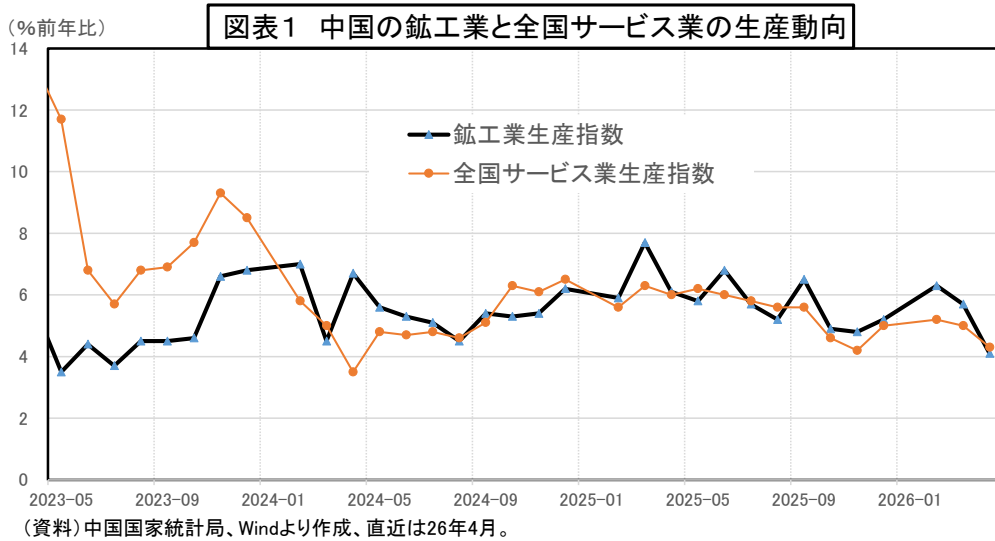
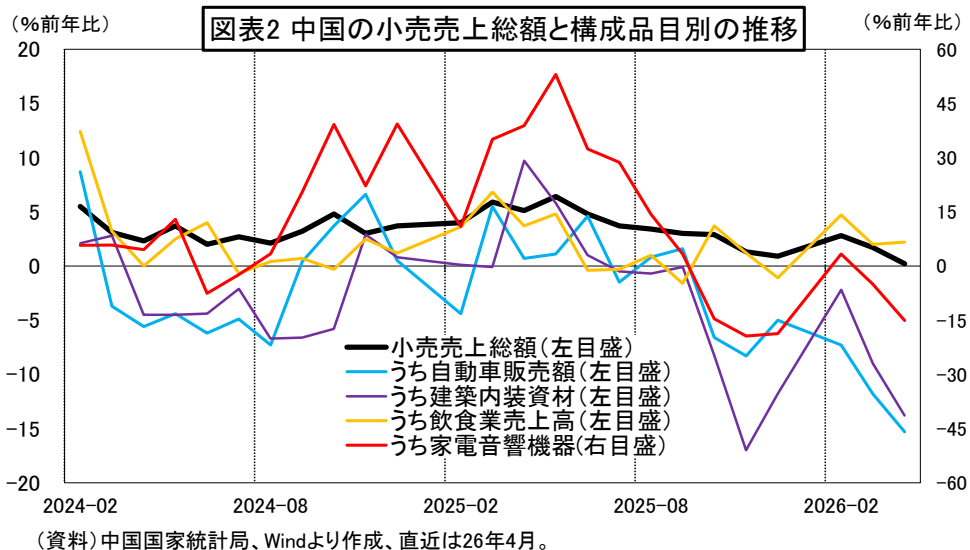


(中国)4月の生産・投資・消費は一段と弱まり、景気減速懸念が高まる

2026年1～3月期の実質GDP成長率は前年比5.0%となり、10～12月期(同4.5%)から0.5ポイント加速した。しかし、その後は、輸出が比較的底堅く推移したものの、内需の弱さが続いており、景気減速への懸念が高まっている。国家統計局が2026年5月18日に発表した4月の経済指標によると、生産および内需(消費・投資)の減速が確認された。



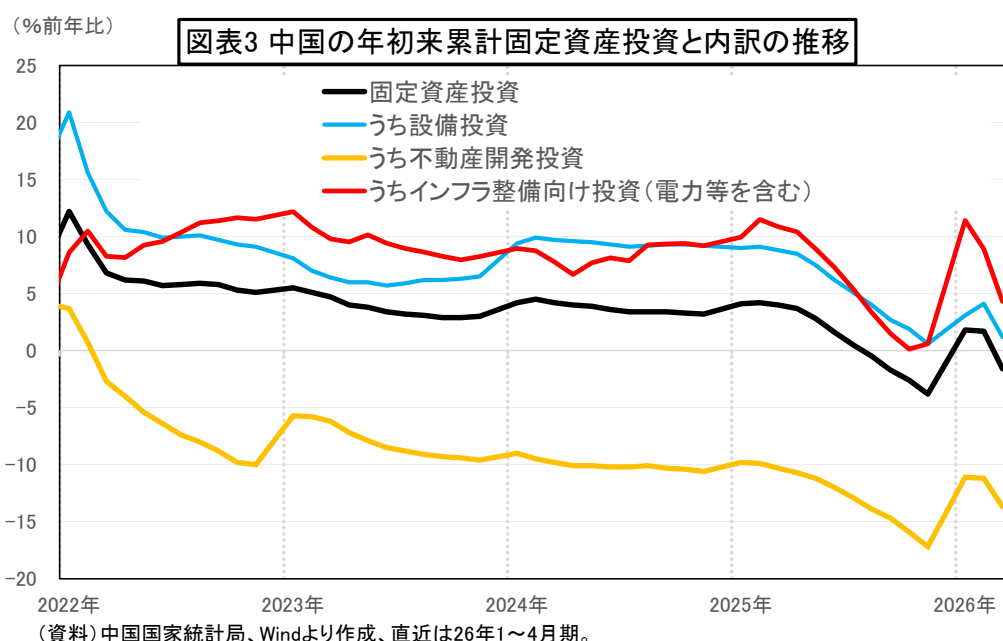
まず生産面では、4月の鉱工業生産(一定規模以上)は前年比4.1%と、1～2月期(同6.3%)、3月(同5.7%)から大きく鈍化した(図表1)。また、全国サービス業生産も同4.3%と、1～2月期(同5.2%)、3月(同5.0%)から鈍化している。



また、個人消費についても、雇用環境や先行き不安などを背景に弱さが続いている。個人消費の動きを示す社会消費品小売上総額(以下、小売上総額)は前年比 0.2%と、1~2 月期(同 2.8%)、3 月(同 1.7%)から大きく鈍化した(図表 2)。内訳を見ると、外食は同 2.2%と比較的堅調であったものの、消費財は同▲0.1%と低迷した。

消費財のなかでは、自動車販売額が前年比▲15.3%と減少幅が拡大し、全体を押し下げている。自動車を除いた小売上総額は同 1.8%であった。また、自動車販売の落ち込みや電気自動車(EV)普及の進展、ガソリン価格の急騰を背景に、石油およびその製品も同▲6.5%と減少が続いている。

さらに、不動産市場の低迷が続くなか、家具と建築内装資材はそれぞれ同▲10.4%、同▲13.8%と減少が続いている。加えて、消費刺激策の効果が弱まるなか、家電音響機器、体育・娯楽用品はそれぞれ同▲15.1%、同▲8.0%と低調であった。さらに、価格調整の影響もあり、これまで好調だった貴金属(宝飾品)は同▲21.3%となった。一方、タバコ・酒類、化粧品類はそれぞれ同 11.7%、同 4.7%と比較的堅調であり、生活必需品も底堅く推移している。



投資面では、26 年 1~4 月期の固定資産投資(以下、投資)は前年比▲1.6%と再びマイナスに転じた(図表 3)。4 月単月では前月比▲2.36%と、1 月(同 0.74%)、2 月(同 0.72%)、3 月(同▲0.58%)から減速が一段と顕著になっている。

内訳を見ると、上海など一部の大都市では不動産市場に持ち直しの動きが出ているものの、中小都市における住宅販売の不振や不動産開発企業のバランスシート調整が続いているため、不動産開発投資は前年比▲13.7%と減少幅が一段と拡大した。また、インフラ整備向け投資(電力等を含む)および製造業の設備投資もそれぞれ 4.3%、同 1.2%と、いずれも 3 月から大きく減速した。

こうした状況を踏まえると、地方債や特別国債の発行・利用の加速に加え、利下げなどの金融緩和が必要になると考えられる。今後の政策対応の動向が注目される。